

原薬から製剤まで 医薬品のダイト



2018年5月期第2四半期決算説明資料

2018年1月16日（火）

東証一部：4577

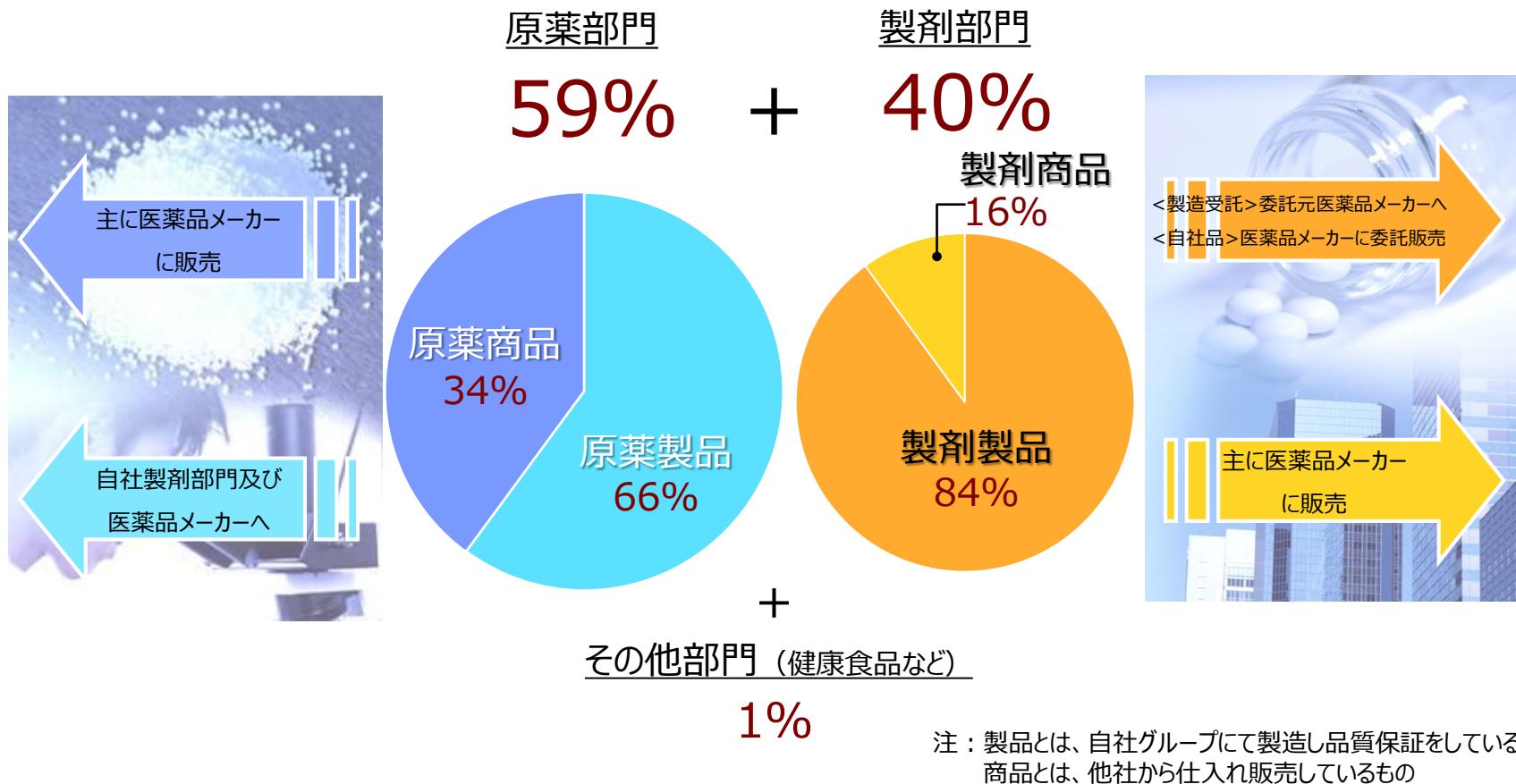
ダイト株式会社

I . 会社概要	P 3
II . 成長戦略と進捗状況	P 7
III . 第2四半期決算概要と通期予想	P 21
参考資料	P32

I. 会社概要

**原薬から製剤までの生産体制をベースに、
高品質な製品・商品両方の展開で顧客ニーズに対応**

部門別売上構成（2017年5月期）



当社ビジネスモデルの特長

原薬と製剤のコラボレーション

- 原薬・製剤それぞれの営業部門の情報を共有化し、高い情報収集・提供能力を発揮
- 自社（グループ企業も含む）原薬から製剤まで製造することにより高品質と低成本を実現
- 原薬・製剤の開発データの共有化によって、より市場ニーズに合った製品の開発が可能

医薬品製造への資源集中

- 販売並びに開発に掛ける費用を抑えることにより、医薬品の製造に経営資源を集中
⇒ 独自にM Rは持たず、固定費の抑制
- ⇒ 開発品目はジェネリックの原薬及び製剤のみであり、新薬に比べて開発リスク及び開発コストが低い

幅広い生産品目

- ジェネリック医薬品のみならず、新薬や長期収載品の受託製造、O T C薬の製造まで幅広くカバー
⇒ 多数の品目カテゴリーを製造販売することにより、市場の成長の幅広い取り込みが可能
- ⇒ 大手メーカーの製造受託に応えることにより、高レベルな品質・製造のノウハウを保有

商社機能の充実

- 自社で生産していない品目であっても、国内外における独自のネットワークで他社から仕入し販売を行う
⇒ ダイトは元々商社であるため、仕入のネットワークが構築されている。
販売先が必要な情報の提供を行うソリューションビジネスを展開

他社にはない独自のビジネスモデルを形成

当社グループ

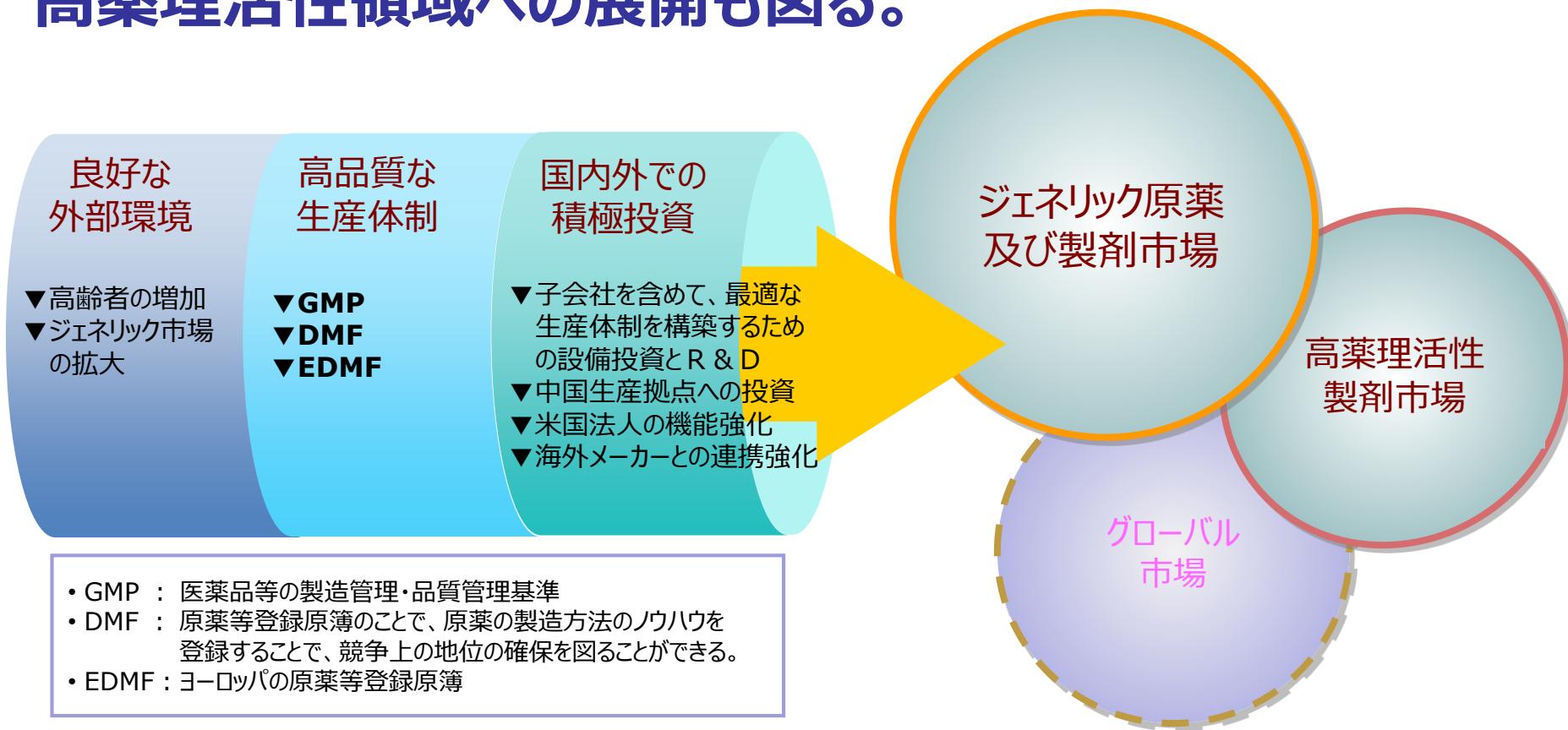
DAITO



II . 成長戦略と進捗状況

成長戦略のフレーム

市場の追い風と高度な製造技術をベースに、業界ポジション確立に向けた投資を継続し、高薬理活性領域への展開も図る。



重点施策

既存ビジネス

- 当面、重点的に強化していく課題

「研究開発の強化」(売上対比で3~4%水準、高薬理領域も着手)

「開発・生産能力増強投資を継続」(安定供給・品目拡大)

「生産効率化の推進」

新規ビジネス

- 中長期的な成長に向けての布石

「高薬理物質への注力・拡充及び海外展開」

高薬理R & Dセンター：2017年6月竣工

第八製剤棟：2017年10月着工、2018年12月竣工予定

研究開発の成果 ①ジェネリック原薬

ジェネリック原薬2018/5期の上市品

● 2018/5期の主な上市品

(2017年6月と2017年12月の新規収載分)

新規収載時期	薬効	品名
2017年6月	血圧降下剤	テルミサルタン
	抗精神病薬	アリピプラゾール
2017年12月	血圧降下剤	オルメサルタン メドキソミル
	高脂血症用剤	ロスバスタチンカルシウム
	血圧降下剤	イルベサルタン

研究開発の成果 ②ジェネリック製剤

ジェネリック製剤2018/5期の上市品

● 2018/5期の上市品

(2017年6月の新規収載分)

一般名(規格・単位)	薬効	先発品名	販売会社
テルミサルタン錠 (20, 40, 80mg)	血圧降下剤	ミカルディス錠 (日本ベーリンガー、アステラス)	ファイザー
モンテルカスト細粒 (4mg)	抗アレルギー剤	キプレス (杏林製薬)、シングレア (M S D)	科研製薬
モンテルカストチュアブル錠 (5mg)	抗アレルギー剤	キプレス (杏林製薬)、シングレア (M S D)	科研製薬

(2017年12月の新規収載分)

一般名(規格・単位)	薬効	先発品名	販売会社
ロスバスタチン錠 (2.5, 5mg)	高脂血症用剤	クレストール (アストラゼネカ、塩野義製薬)	科研製薬
ロスバスタチンOD錠 (2.5, 5mg)	高脂血症用剤	クレストール (アストラゼネカ、塩野義製薬)	科研製薬
ファムシクロビル錠 (250mg)	抗ヘルペスウィルス剤	ファムビル (旭化成ファーマ)	日本ジェネリック

※2018年6月発売予定品 1成分2規格

生産体制最適化への取り組み

原薬

当社及び子会社の大和薬品工業(株)、関係会社の千輝薬業(安徽)有限責任公司で生産。

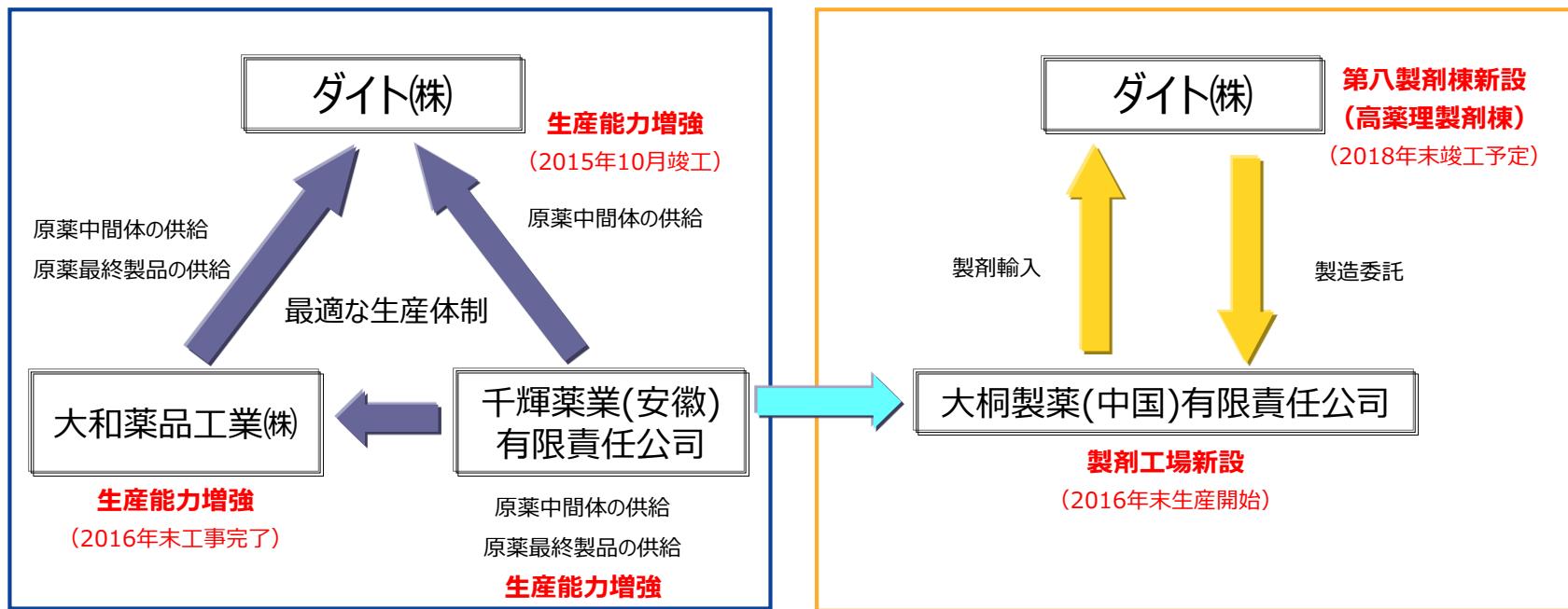
製剤

当社及び子会社の大桐製薬(中国) 有限責任公司で生産。

(注) 赤文字は重点施策

原薬事業の生産体制

製剤事業の生産体制



国内外における生産能力増強投資（1）

原薬

大和薬品工業（株）

第一原薬工場
(2014年5月竣工)



- ・投資額 約11億円
- ・建設工期 2013年8月着工、2014年5月竣工
- ・建設規模 鉄筋コンクリート造4F。工場延べ床面積約1,712m²
- ・生産ラインの増強
約8億円を投資し、生産ラインの増設工事を2016年5月より開始し、2016年末に工事完了。

本社

第六原薬棟
(2015年10月竣工)

第三原薬包装棟
(2015年10月竣工)



- ・投資額 原薬棟 約19億円、包装棟 約12億円
- ・建設工期 2014年12月着工、2015年10月竣工
- ・生産能力 従来比+20%増
- ・稼働開始 2016年2月

国内外における生産能力増強投資（2）

製剤

大桐製薬(中国)有限責任公司

新製剤工場

(2014年11月竣工)



- ・投資額 約8億円
- ・生産能力 約1億錠/年
- ・建設規模 鉄筋コンクリート造4F
工場延べ床面積約11,635m²
- ・建設工期 2013年7月着工、2014年11月竣工
- ・生産開始 2016年末

本社

高薬理製剤棟（第七製剤棟）

(2014年12月竣工)



高薬理活性固形製剤の治験薬製造及び
製剤から包装までの一貫製造体制。

- ・投資額 約15億円
- ・建設規模 鉄筋コンクリート造2F
工場延べ床面積577m²
- ・建設工期 2014年5月着工、2014年12月竣工
- ・機能と目的 1ロットあたり15～30kgの中規模スケール
の高薬理活性製剤の製造

高薬理活性製剤への投資

本社

高薬理R&Dセンター

(2017年6月 竣工)



・投資額 約17億円

・建設工期 2016年8月 着工
2017年6月 竣工

・機能と目的

当社の成長戦略に据えております、高薬理活性領域における製剤及び原薬の研究開発体制の整備・強化を図ります。また、小規模スケール（1～10kg）の製剤製造設備を備えており、大手メーカーの治験薬製造受託や自社ジェネリック品の開発などを積極的に行います。

本社

第八製剤棟

(2018年12月 竣工予定)



・投資額 約35億円

・建設工期 2017年10月 着工
2018年12月 竣工予定

・機能と目的

既存の第七製剤棟と合わせ、高薬理活性領域における製剤の製造体制を強化します。第八製剤棟では第七製剤棟よりもスケールが大きい1ロットあたり40～70kg程度の製剤を製造いたします。これにより、小・中・大スケールの製造設備を保有することになります。

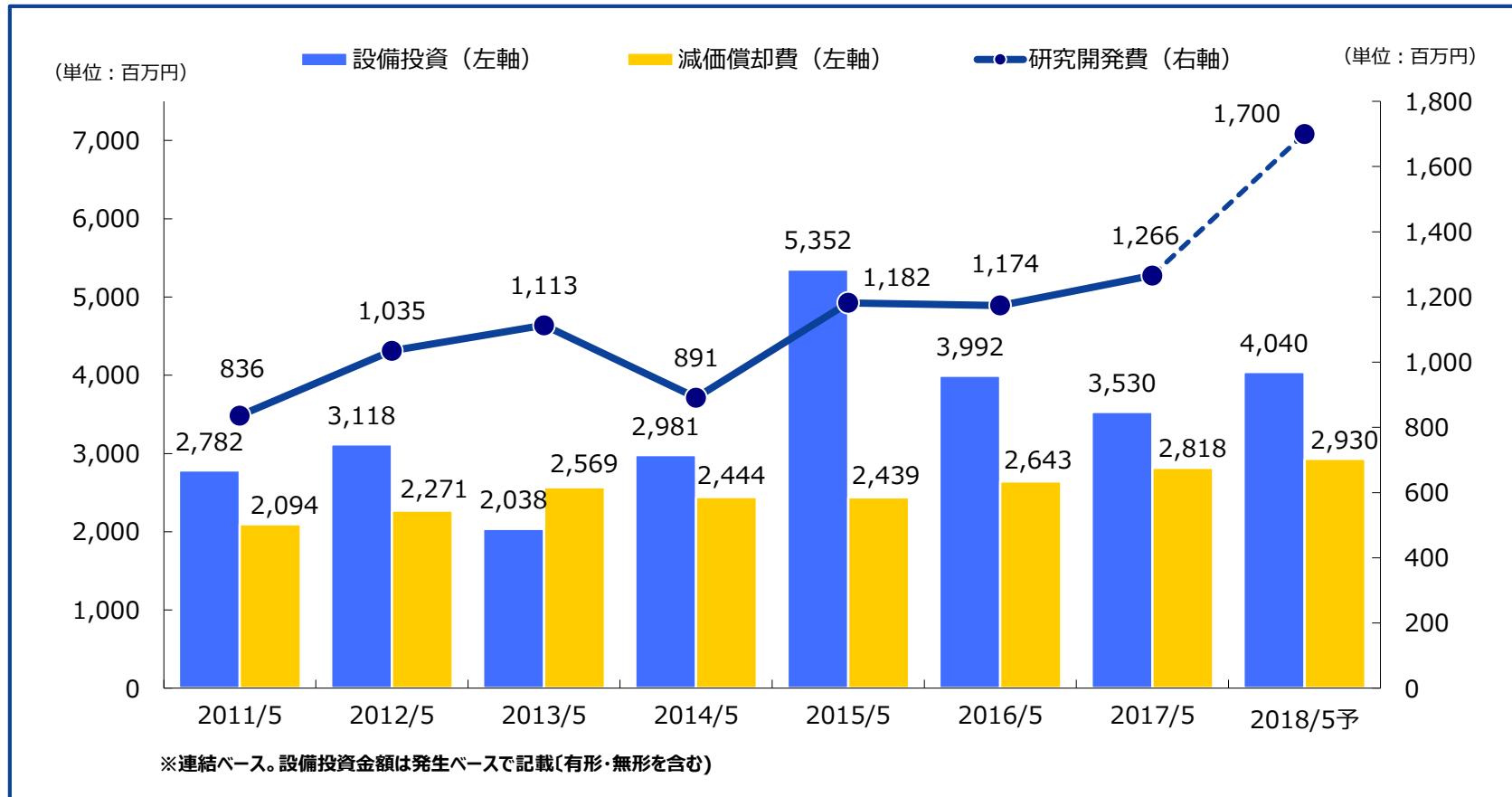
高薬理活性製剤の生産体制

- 第八製剤棟の竣工（2018年12月予定）によって、小規模から大規模までの高薬理活性領域における製剤の生産体制を確立

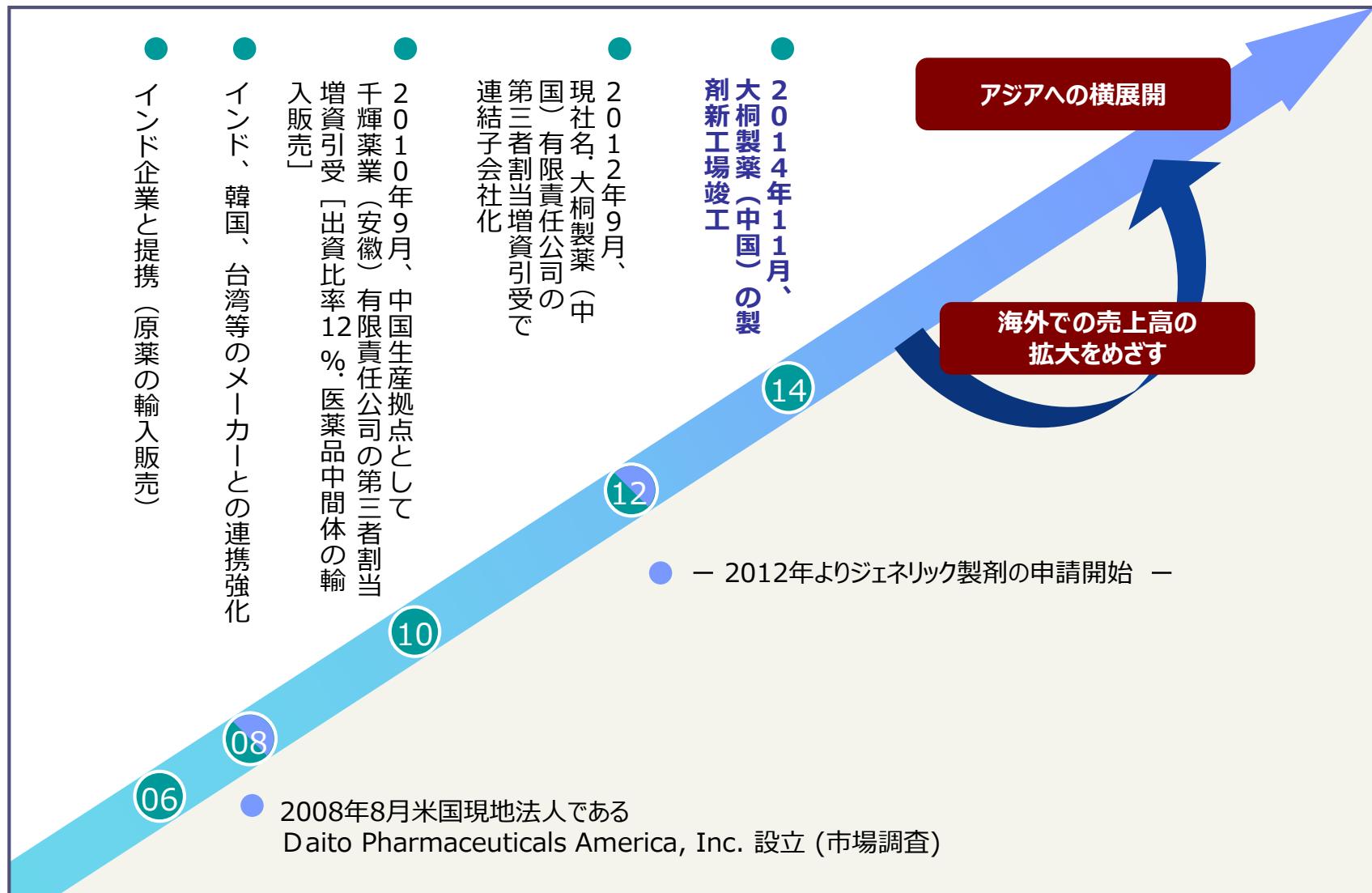
	竣工年月	延べ床面積	機能
第七製剤棟	2014年12月	577m ²	1ロットあたり15kg～30kgの 中規模スケールの製剤を製造
高薬理R & Dセンター	2017年6月	1,596m ²	1ロットあたり1kg～10kgの 小規模スケールの製剤を製造予定
第八製剤棟	2018年12月 予定	3,301m ²	1ロットあたり40kg～70kgの 大規模スケールの製剤を製造予定 余積スペースがあり将来拡張可能

設備投資額・研究開発費の推移

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

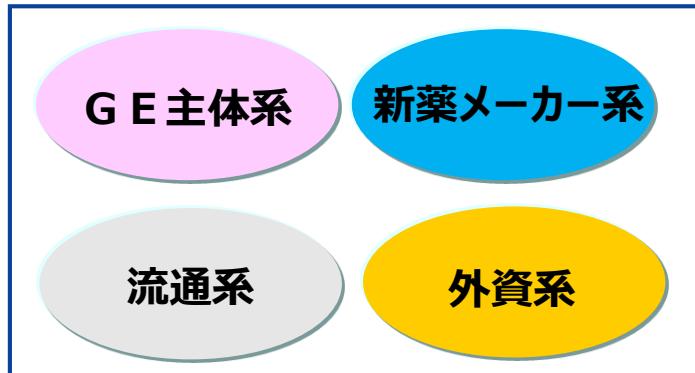


グローバル展開

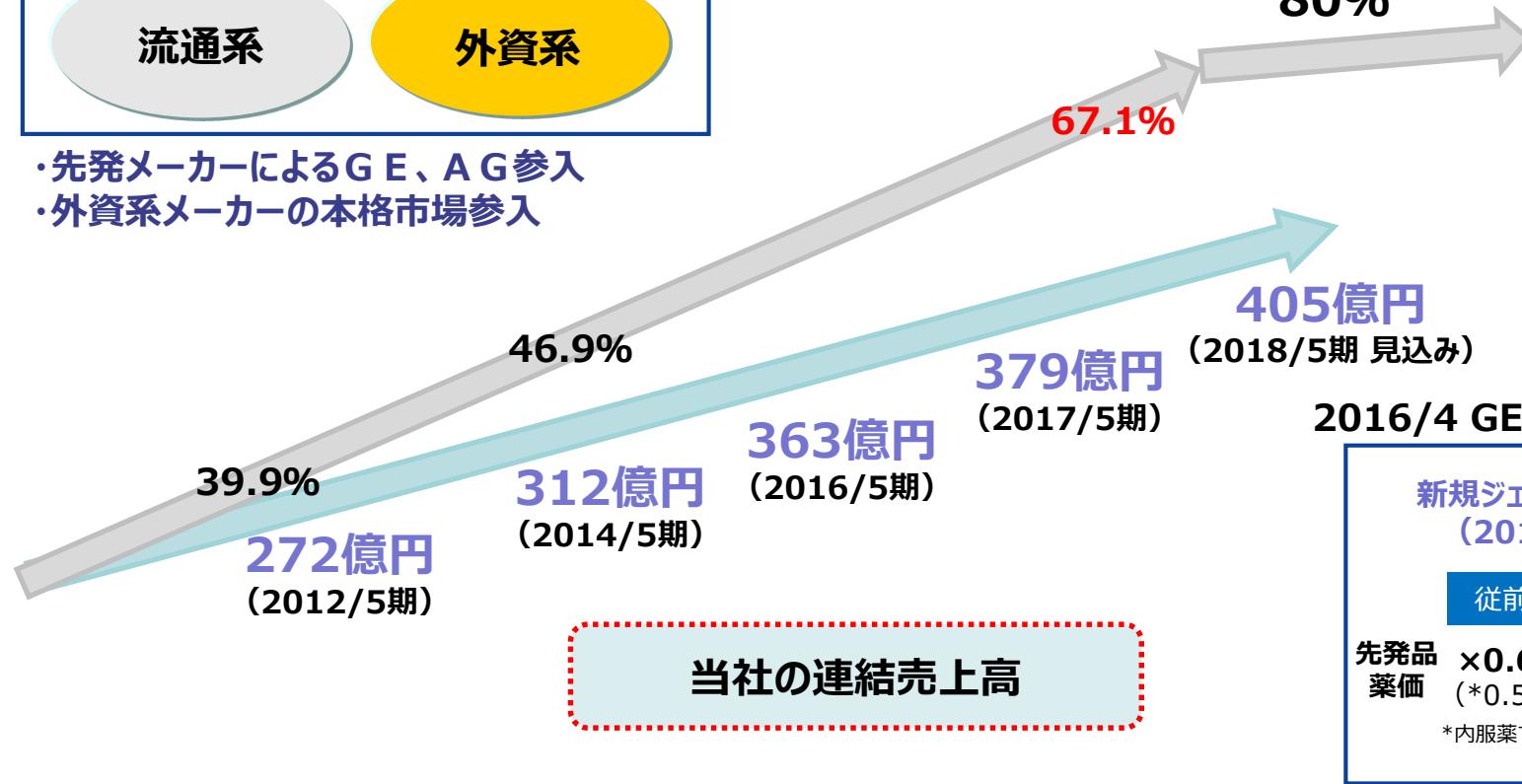


国内ジェネリック医薬品を取り巻く環境

国内ジェネリック医薬品業界



- ・先発メーカーによるG E、A G参入
- ・外資系メーカーの本格市場参入



骨太方針2017の政府目標

国内ジェネリック比率
80%

67.1%

405億円

(2018/5期 見込み)

2016/4 GE薬価ルールの変更

新規ジェネリック品薬価
(2016/4以降)

従前

改正

先発品
薬価 $\times 0.6$
(*0.5) \rightarrow $\times 0.5$
(*0.4)

*内服薬で10品目越えの場合

**生産体制の最適化に取り組み、高品質・
低コストを武器に、国内およびグローバル
展開への布石をうつ**

- 高薬理活性固形剤の生産体制拡充
- 低コスト原薬製造プロセスなどの開発
- ジェネリック原薬、製剤の開発加速

III. 第2四半期決算概要と通期予想

決算ハイライト

- 18/5期2Qは、6.4%增收、営業利益6.5%増益、経常利益10.6%増益。
- 国内G E市場の拡大および新規の受託案件に伴い、製剤の販売が堅調。

(単位：百万円)

	2017/5期 2Q		2018/5期 2Q		前期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%
売 上 高	19,219	100.0	20,454	100.0	+1,234	+6.4
営 業 利 益	2,126	11.1	2,265	11.1	+139	+6.5
経 常 利 益	2,083	10.8	2,304	11.3	+221	+10.6
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,423	7.4	1,587	7.8	+163	+11.5
E P S (円)	113.79	-	126.82	-	+13.03	-
配 当 金 (円 / 株)	15.00	-	15.00	-	0.00	-
研 究 開 発 費	640	-	765	-	+125	-
減 価 償 却 費	1,379	-	1,387	-	+8	-
設 備 投 資 額	840	-	1,854	-	+1,014	-

部門別売上高

- G E 原薬は、大型品目を中心としたAGの登場により厳しい状況で推移した。
- 製剤は、自社G E 医薬品と受託製剤および一般用医薬品が好調に推移し、増収となった。

(単位：百万円)

	2017/5期 2Q		2018/5期 2Q		前期比増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
原薬	11,572	60.2	11,265	55.1	△307	△2.7
製品	7,404	38.5	7,311	35.7	△93	△1.3
商品	4,168	21.7	3,954	19.3	△214	△5.1
製剤	7,454	38.8	9,016	44.1	+1,562	+21.0
製品	6,316	32.9	7,612	37.2	+1,296	+20.5
商品	1,138	5.9	1,404	6.9	+266	+23.4
健康食品他	192	1.0	172	0.8	△20	△10.7
売上高合計	19,219	100.0	20,454	100.0	+1,235	+6.4

要約損益計算書

(単位：百万円、%)

	2017/5期 2Q		2018/5期 2Q		前期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%
売 上 高	19,219	100.0	20,454	100.0	+1,234	+6.4
売上原価	15,145	78.8	16,221	79.3	+1,075	+7.1
売上総利益	4,073	21.2	4,233	20.7	+159	+3.9
販管費	1,947	10.1	1,967	9.6	+20	+1.0
営業利益	2,126	11.1	2,265	11.1	+139	+6.5
営業外損益	△43	△0.3	38	0.2	+81	-
経常利益	2,083	10.8	2,304	11.3	+221	+10.6
特別損益	1	0.0	20	0.1	+18	-
税引前利益	2,084	10.8	2,324	11.4	+239	+11.5
法人税等	675	3.5	752	3.7	+76	+11.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,423	7.4	1,587	7.8	+163	+11.5

原価率

操業度のアップはあるものの以下の要因でコストアップとなる。

- 為替の円安によるコストアップ
- 製造固定費のアップによるコストアップ

販管費

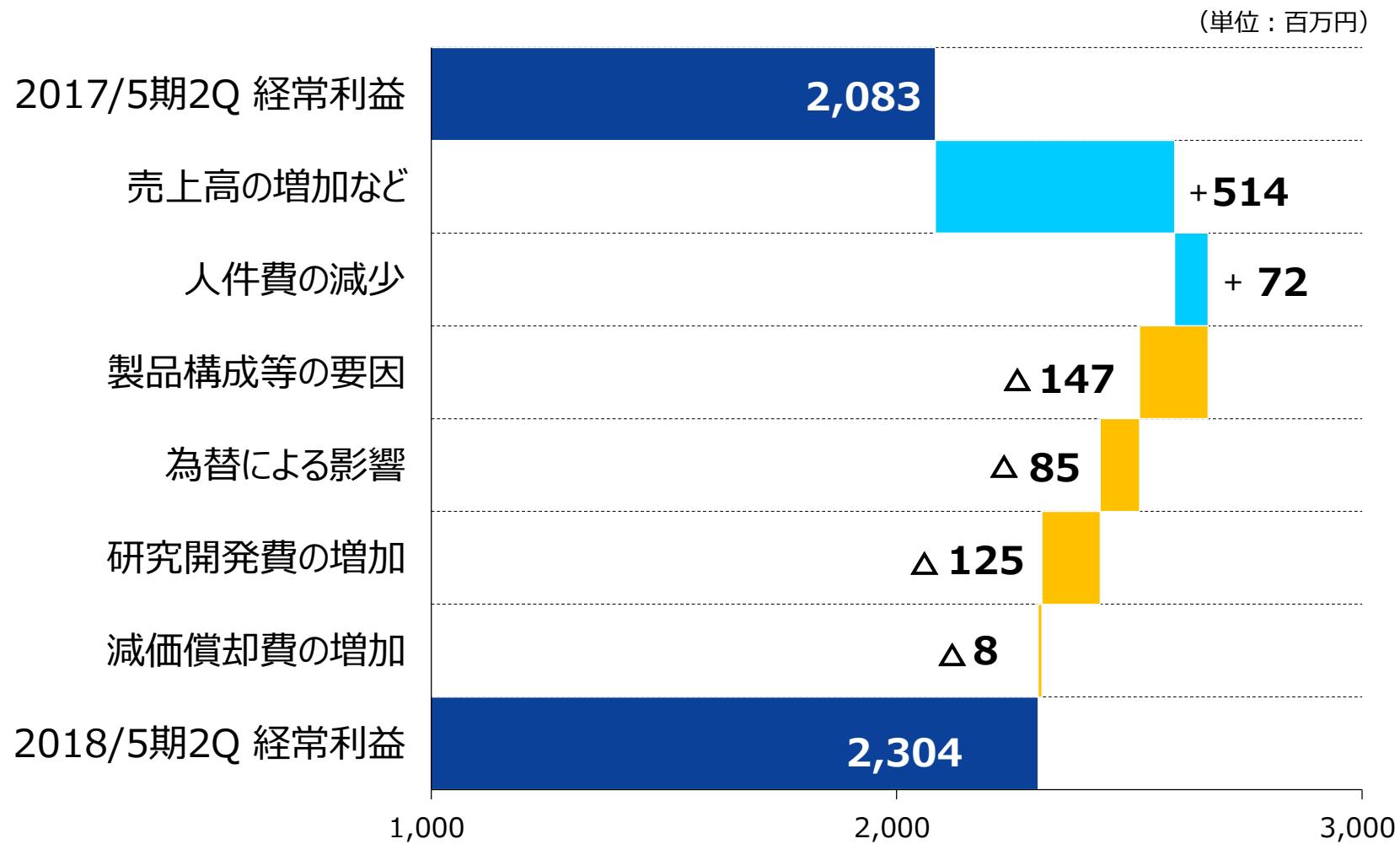
●研究開発費の増加125百万円があるものの、その他経費等の減少で20百万円の増加に留まる。

営業外収支

- 為替差損の減少

※売上原価には、返品調整引当金戻入額・繰入額を含む

経常利益の増減分析



要約貸借対照表

(単位：百万円)

	2017/5末	2017/11末	増減額
流動資産	24,345	25,648	+1,302
現金及び預金	1,617	1,711	+93
売上債権*	13,588	14,103	+474
棚卸資産	8,492	9,203	+710
固定資産	21,362	22,043	+681
有形固定資産	17,878	18,403	681
資産合計	45,707	47,691	+1,983
流動負債	15,234	15,604	+369
仕入債務*	5,463	5,836	+372
短期有利子負債	4,804	5,454	+650
固定負債	4,659	4,760	+101
長期有利子負債	3,694	3,749	+55
負債合計	19,894	20,364	+470
純資産合計	25,813	27,327	+1,513

棚卸資産 +7億円

- 商品及び製品 +2億円
- 仕掛品 +5億円
- 原材料及び貯蔵品 +0億円

有形固定資産 +6億円

- 第八製剤棟の着工 +9億円

短期有利子負債 +6億円

- 短期借入金 +7億円

純資産 +15億円

- 当期純利益 +15億円
- 評価換算差額等 △1.6億円

*: 電子記録債権、電子記録債務を含む

要約キャッシュフロー計算書

- 営業C Fは16億円の受取超過、投資C Fは20億円の支払超過。
- 有利子負債増加で、財務C Fは4億円の受取超過。

	2017/5期 2Q	2018/5期 2Q
営業キャッシュ・フロー	2,143	1,613
税引前利益	2,084	2,324
減価償却費	1,379	1,387
売上債権の増減額（△は増加）	△1,183	△504
棚卸資産の増減額（△は増加）	△1,345	△710
仕入債務の増減額（△は減少）	885	653
法人税等の支払額	△304	△963
投資キャッシュ・フロー	△1,330	△2,004
有形固定資産の取得による支出	△1,340	△1,984
財務キャッシュ・フロー	△519	472
短期・長期借入金のネット収支	△308	705
現金及び現金同等物の期中増減額	271	93
現金及び現金同等物の期末残高	1,622	1,711

2018年5月期 業績予想

- 2018年5月期は、6.6%增收、7.0%営業増益の予想。
- 政府のG E 使用促進策の浸透で、国内G E市場の拡大が続く見込み。
- 減価償却費や開発費など、費用増加を予想。

(単位：百万円、%)

	2017/5期		2018/5期 予想		前期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	%
売 上 高	37,984	100.0	40,500	100.0	+2,516	+6.6
営 業 利 益	3,832	10.1	4,100	10.1	+268	+7.0
経 常 利 益	3,878	10.2	4,150	10.2	+271	+7.0
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	2,656	7.0	2,850	7.0	+194	+7.3
E P S (円)	212.26	—	227.7	—	+15.44	—
配 当 金 (円 / 株)	33.0	—	30.0	—	△3.0	—
研 究 開 発 費	1,266	—	1,700	—	+434	—
減 価 償 却 費	2,818	—	2,920	—	+102	—
設 備 投 資 額	3,530	—	4,040	—	+510	—

2018/5期 部門別売上予想

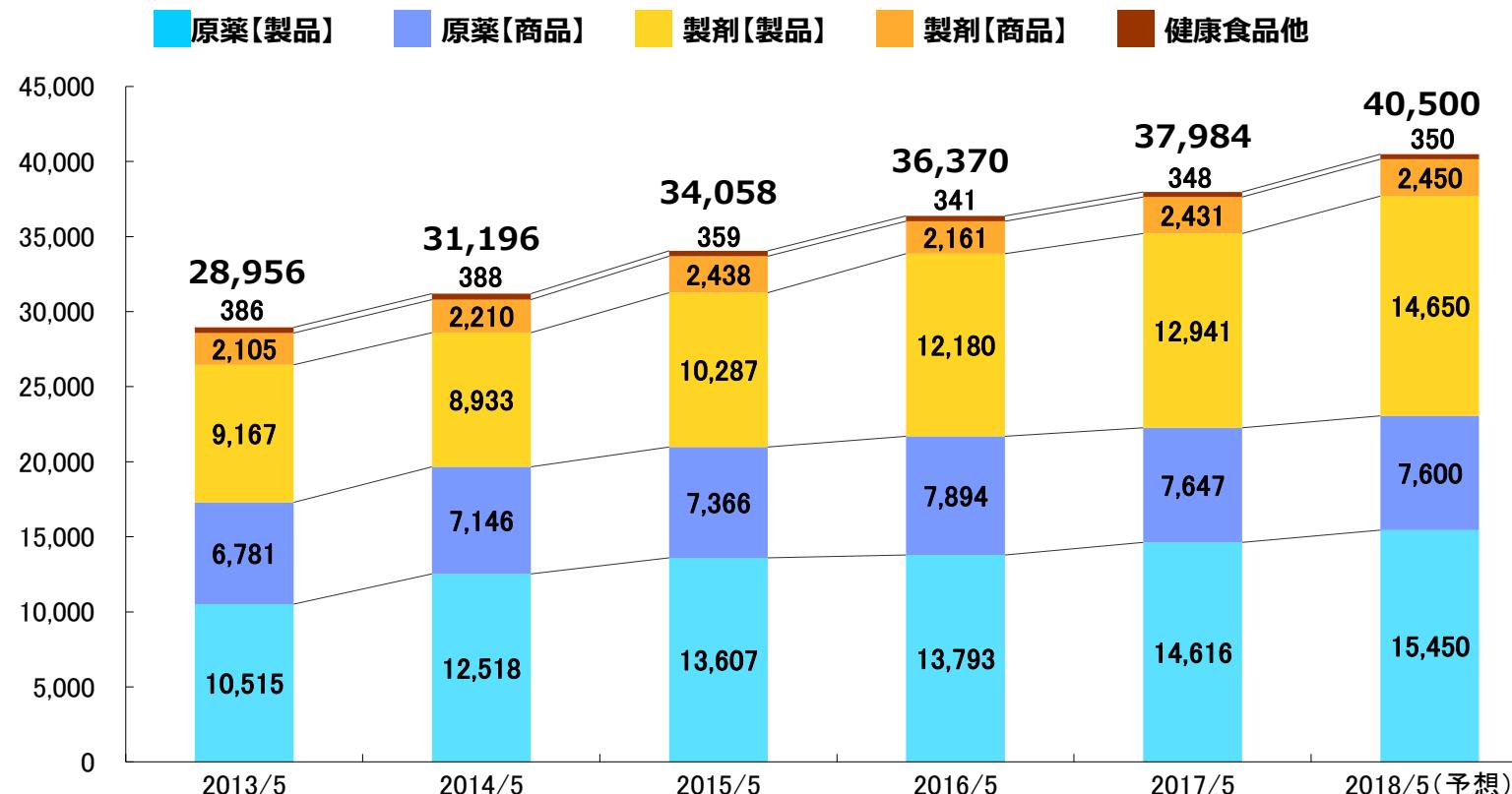
- 原薬製品は、大型品目を中心としたAGの登場により厳しい状況が続くが増収を予想。
- 製剤は、自社G E医薬品、新規受託品目および一般用医薬品ともに増加を予想。

(単位：百万円)

	2017/5期		2018/5期 計画		前期比増減	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	金額	%
原 薬	22,263	58.6	23,050	56.9	+787	+3.5
	製品	14,616	38.5	15,450	38.1	+834
	商品	7,647	20.1	7,600	18.8	△47
製 剂	15,372	40.5	17,100	42.2	+1,728	+11.2
	製品	12,941	34.1	14,650	36.2	+1,709
	商品	2,431	6.4	2,450	6.0	+19
健康食品他	348	0.9	350	0.9	+2	+0.6
売上高合計	37,984	100.0	40,500	100.0	+2,516	+6.6

部門別売上高の推移と予想

(単位：百万円)

ジェネリック関連の
売上構成比率

(69%)

(74%)

(77%)

(78%)

(79%)

(78%)

- 当社は、事業価値の持続的増大と、それによる株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題として位置づけております。
- 利益還元は、当該期の業績に加え、今後の成長投資や財務体質の強化を考慮し、安定的な配当実施を重視しております。



2018/5期の年間配当金は、1株当たり30円を予定。

參考資料

プロフィール

社名：ダイト株式会社

本社所在地：富山県富山市八日町326番地

設立年月：1942年6月

決算期：毎年5月末

代表者：代表取締役社長 大津賀 保信（おおつか やすのぶ）

従業員数：723名（平均臨時雇用者数34名 外数）※連結、2017年11月30日現在

事業内容：原薬及び製剤の製造販売・製造受託・仕入販売、健康食品等の販売

子会社：大和薬品工業株式会社（原薬の製造）

Daito Pharmaceuticals America, Inc.（原薬・製剤の輸出業務支援）

大桐製薬(中国)有限責任公司（中国での製造）

経営理念



沿革

1942年 6月	富山家庭薬の東南アジアへの輸出統制会社として大東亜薬品交易統制株式会社を設立 ※1991年 ダイト株式会社(現社名)に商号変更
1949年 3月	配置用医薬品製造を開始
1950年 6月	原薬卸業部門を開設し、原薬の販売を開始
1963年 5月	大阪市東区に大阪営業所を新設 ※1973年12月 大阪支店に昇格。1987年8月 中央区に移転
1965年 4月	東京都千代田区に東京営業所を新設 ※1970年9月 東京支店に昇格
1976年 10月	医療用医薬品(ジェネリック医薬品)の製造を開始
1979年 11月	原薬の製造を開始
1985年 4月	O T C 医薬品の製造を開始
1987年 7月	大和薬品工業株式会社を子会社化 ※2007年10月 株式交換により完全子会社化
1989年 10月	原薬の新薬中間体の受託製造を開始
2001年 9月	医療用医薬品の受託製造を本格的に開始
2007年 11月	米国イリノイ州に駐在員事務所を設置 ※2008年6月 廃止
2008年 6月	Daito Pharmaceuticals America, Inc.設立
2010年 3月	東京証券取引所市場第2部に上場
2011年 3月	〃 第1部に指定
2012年 9月	安徽微納生命科学技術開発有限責任公司を子会社化 [現社名 : 大桐製薬(中国)有限責任公司]

設備の状況

1949年 事務所・工場を新設

1971年 研究所を富山市に新設
※1985年同研究所を本社工場の隣接地に新設・移転

1979年 第一製剤棟を新設

1979年 原薬実験棟を新設

1985年 第二製剤棟を新設

1982年 第一原薬棟を新設

1986年 原薬包装棟を新設

1989年 第一物流センターを新設

1989年 第二原薬棟を新設

1993年 第三製剤棟を新設

1995年 第二物流センターを新設

2001年 第五製剤棟を新設

2001年 第三物流センターを新設

2003年 第二包装棟を新設

2007年 第三包装棟を新設

2008年 第六製剤棟を新設

2011年 厚生棟を新設

2007年 第五原薬棟を新設

2007年 第五物流センターを新設

2012年 第五原薬棟設備を増設

2014年 大桐製薬（中国）に製剤棟新設

2014年 大和薬品工業(株)に原薬工場棟新設

2014年 高薬理製剤棟新設

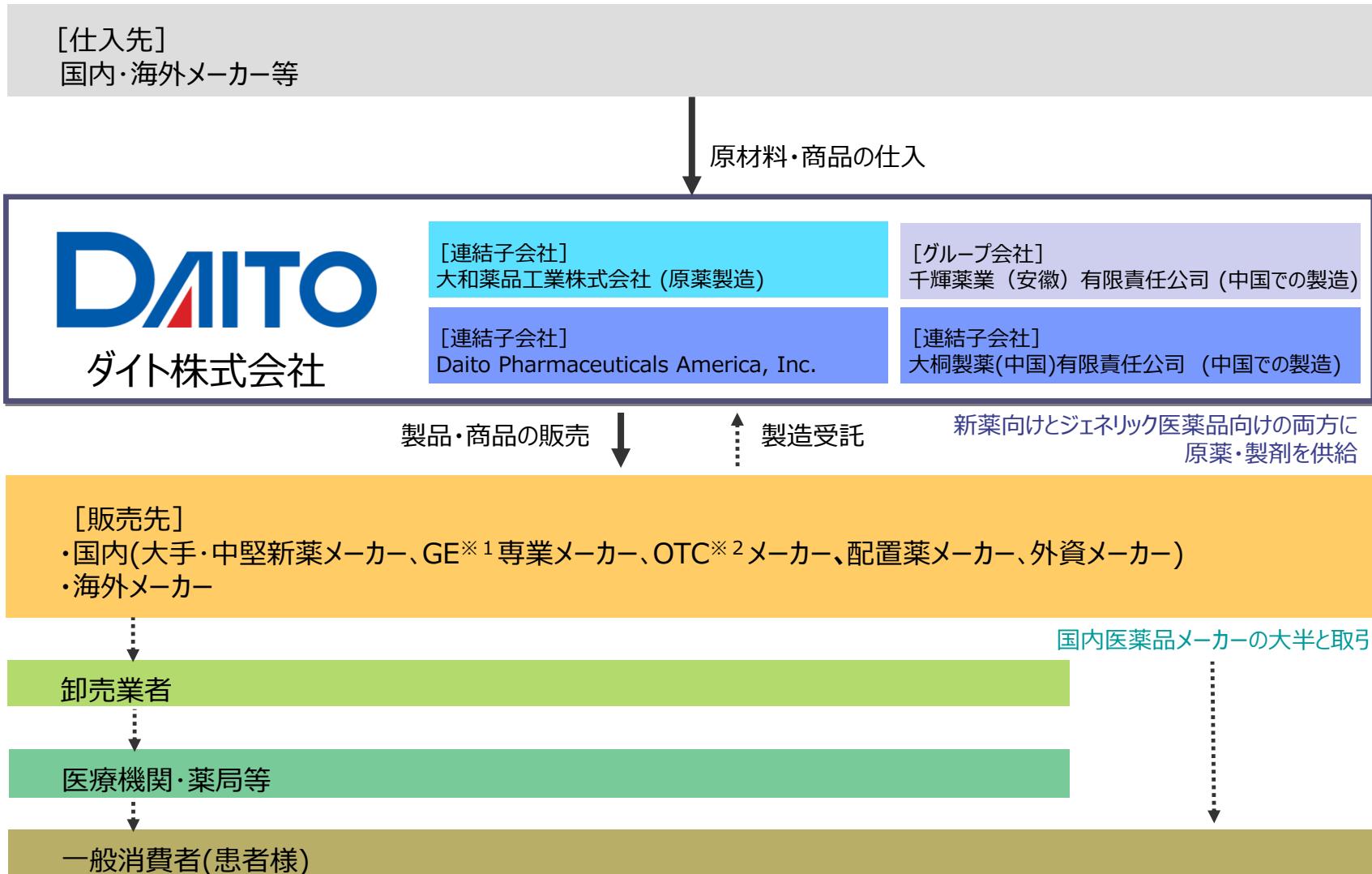
2015年 第六原薬棟完成

2016年 原薬工業化プロセス研究棟新設

2015年 第三原薬包装棟完成

2017年 高薬理 R & Dセンター新設

事業内容

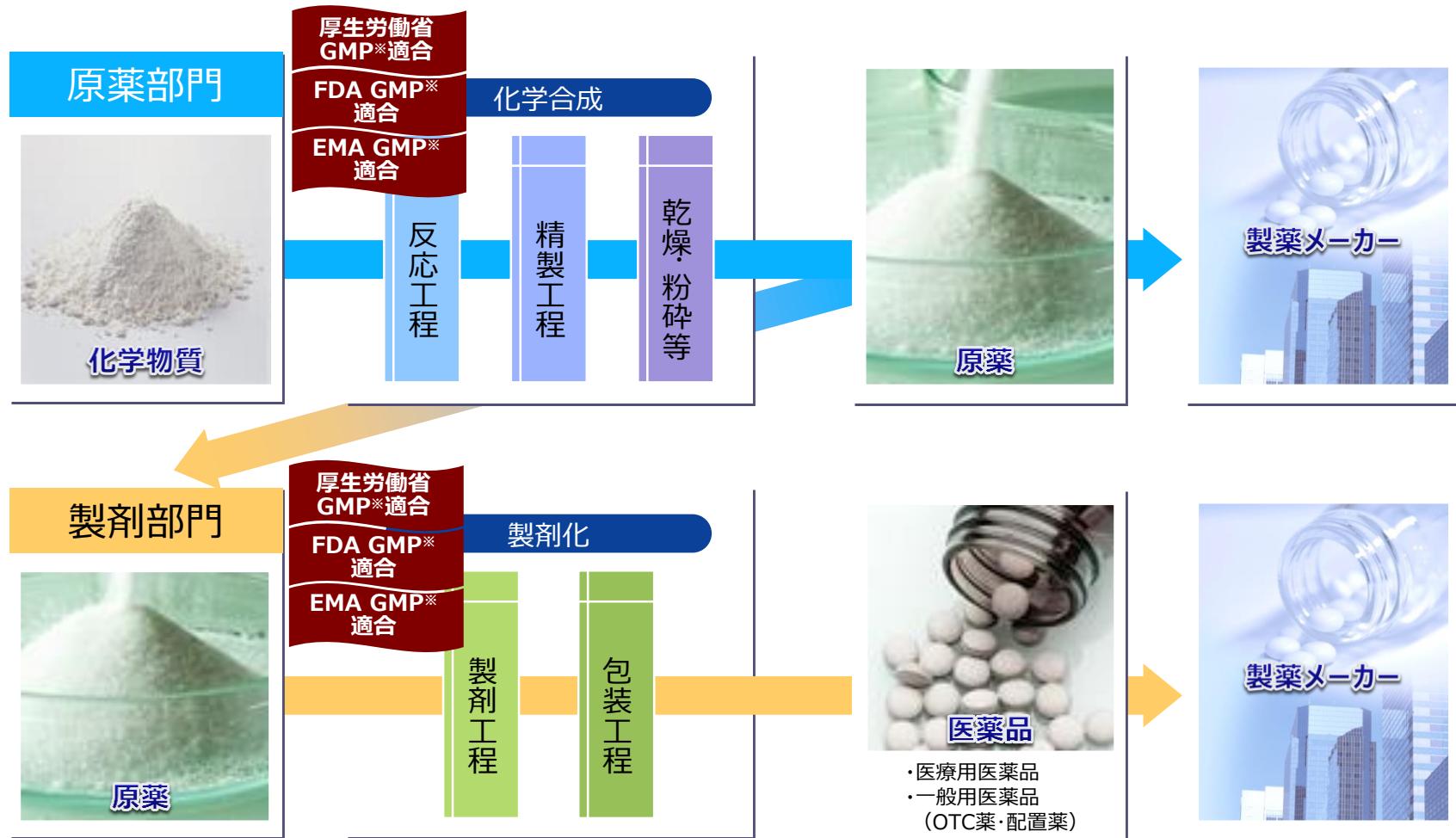


注1：“Generic”的略で、先発品の特許が切れた後、同じ成分で安価に販売される医薬品のことを指す。

注2：“Over the counter”的略で、医師の処方を受けずに販売・購入できる、大衆医薬品のことを指す。

原薬の製造・製剤の製造・原薬から製剤までの一貫製造

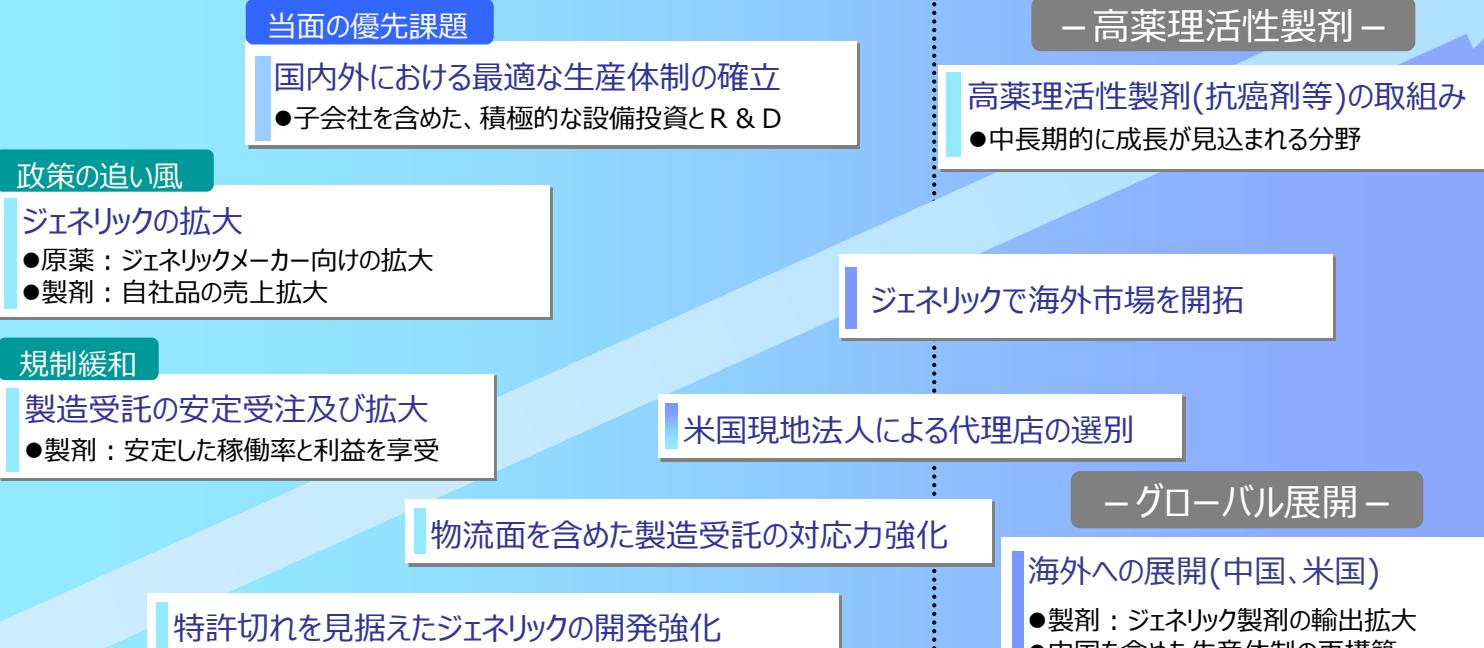
参入障壁が低い業界だが、
当社のような独自のビジネスモデルを確立しているメーカーは少ない



国内外での最適な生産体制構築に加え、 グローバル展開や新分野開拓で更なる成長を目指す

— 当面の外部環境と経営面での対応 —

— 将来を見据えた布石 —



— 高薬理活性製剤 —

- 高薬理活性製剤(抗癌剤等)の取組み** (Initiatives for High-therapeutic-activity Drugs (Anticancer Agents, etc.))
 - 中長期的に成長が見込まれる分野

ジェネリックで海外市場を開拓

米国現地法人による代理店の選別

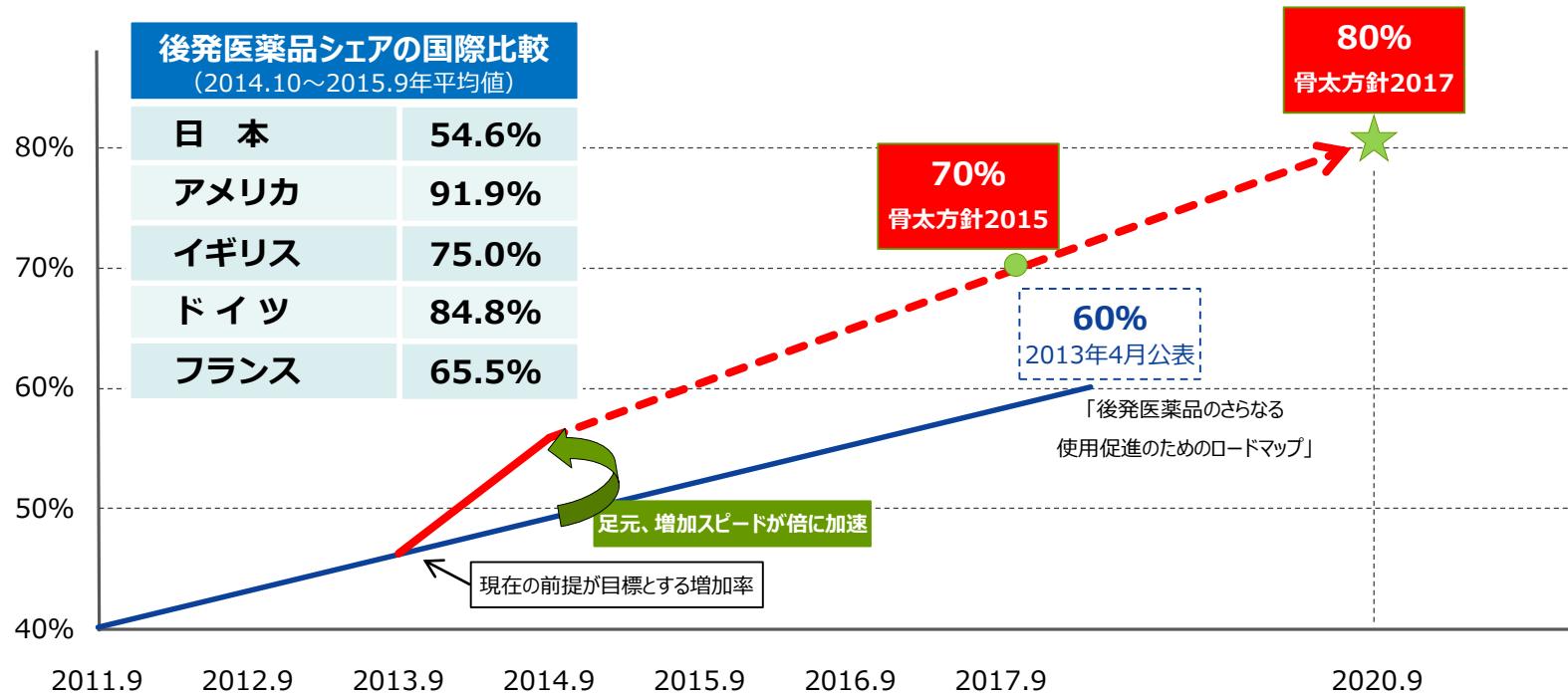
物流面を含めた製造受託の対応力強化

— グローバル展開 —

- 海外への展開(中国、米国)** (Expansion into Overseas Markets (China, United States))
 - 製剤：ジェネリック製剤の輸出拡大
 - 中国を含めた生産体制の再構築

拡大加速が見込まれるジェネリック医薬品市場

ジェネリック医薬品の数量シェア目標



数量シェア拡大に向けた追加措置候補

- 安定供給策
- 品質等に関する信頼性向上策
- 情報提供の充実策
- 診療報酬上の措置

国民負担軽減策候補

- ジェネリック医薬品の薬価算定ルールの見直し
- 長期収載品の保険制度による評価見直し

(出所) 骨太の方針2015、骨太の方針2017を基に作成

この資料は投資家の皆様の参考に資するため、ダイト株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、説明会開催日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資を行う際は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



原薬から製剤まで 医薬品のダイト

ダイト株式会社 経営企画室

TEL : 076-421-8755

FAX : 076-421-5691